2009 年度 小委員会活動成果報告

（2010 年　2 月　8 日作成）

小委員会名	ヒューマナイジングの実践小委員会	**主 査 名**：讃井純一郎 **就任年月**：2009 年　4 月
所属本委員会 （所属運営委員会）	環境工学本委員会 （環境心理生理運営委員会）	**委員長名**：久野　　覚 **主 査 名**：大井　尚行
設　置　期　間	2009 年　4 月　　～　　2013 年　3 月	
設　置　目　的 各年度活動計画 （箇条書き）	①ヒューマナイジングの実践状況に関する情報を整理する。(2009 年度) ②実践を前提としたヒューマナイジング研究の研究手法、研究対象の拡張可能性検討。(2010～2012 年度) ③シンポジウム、チュートリアルの開催。(2010～2012 年度) ④報告書のとりまとめ、刊行物の企画。(2012 年度)	
委員構成 （委員名（所属））	**委員公募の有無**：有 讃井 純一郎（関東学院大学）、植木 暁司（国土交通省）、宇治川 正人（竹中工務店）、小野 久美子（国総研）、影山 優子（西武文理大学）、古賀 誉章（東京大学）、小島 隆矢（早稲田大学）、佐藤 隆（東日本旅客鉄道）、成田 一郎（大成建設）、丸山　玄（大成建設）、三ッ木美恵子（公共建築協会）、山田 哲弥（清水建設）、　計 12 名	
設置 WG （WG 名：目的）	なし	
2009 年度予算	10,000　円	**ホームページ公開の有無**：無 **委員会 HP アドレス**：

項　　目	自己評価
委員会開催数	4　回（ワークショップならびに年度内計画を含む）
刊行物 （シンポジウム資料等は除く）	１．なし
講習会	１．なし
催し物 （シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等）	第１回　環境心理ワークショップ：環境心理研究の実践の実際（2009.8.30）
大会研究集会	１．なし
対外的意見表明・パブリックコメント等	１．なし
目標の達成度 （当初の活動計画と得られた成果との関係）	本年度はワークショップを１回，小委員会を３回(1 回は予定)開催した。本年度大会における OS「環境心理研究の実践」、ならびにワークショップ「環境心理研究の実践の実際」は、当小委員会と環境心理小委員会との共同企画である。また小委員会については、「行動分析ベースの交通空間設計」平沢隆之氏(2009.6.5)、「『地球環境心理学』について」宇治川正人氏(2009.10.9)といった講演をベースに勉強会形式で実施した。
委員会活動の問題点・課題	本年度は、OS やワークショップの企画・手配、また勉強会形式を基本とした小委員会のゲストスピーカー探しに手間取ったことから、小委員会の開催数が少なくなってしまった。2010 年度もまた OS、WS の企画・主催を予定しているが、小委員会の開催頻度は今年度以上を目指す。

＊　小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

2009 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価・最終年度評価)

総合評価 (4 段階評価)	(A)　B　C　D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	*・初年度：* *①　ヒューマナイジングの実践状況に関する情報を整理する。* *２年度：* *①　実践を前提としたヒューマナイジング研究の研究手法、研究対象の拡張可能性検討。* *②　シンポジウム、チュートリアルの開催。* という年度別計画に対し、初年度である 2009 年度は、下記の成果をあげることができた。 1. ①に対応する活動として、大会におけるオーガナイズドセッション「環境心理研究の実践」の企画を担当し、8 編からなるセッションを実現した。この OS は、次年度もまた開催することが内定している。 2. さらに、上記 OS をさらに深く論議する場として、第 1 回　環境心理ワークショップ：環境心理研究の実践の実際（2009.8.30）を企画、運営した（環境心理小委員会と共催）。これは 2 年度の計画を前倒ししたもので、次年度以降も継続していく予定である。 3. 通常小委員会についても、2 年度の計画を前倒しする形で、研究手法や対象の探索を目的に、ゲストスピーカーの講演＋勉強会という形式で、密度の高い議論を進めることができた。ただ、OS、チュートリアルの準備、ならびに勉強会講演者の選定に手間取ったことなどから、開催数が当初想定よりも少なくなってしまったことは反省すべきで、次年度は、*2 年度①*を念頭に、通常小委員会の活動も充実させていく所存である。

- 総合評価は 4 段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
  - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
  - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
  - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
  - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度

- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価 (シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など) に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。